資料１

第１回障害者スポーツ振興ワーキンググループにおける主なご意見
（障害者スポーツセンターの在り方について）

＜総論＞

○　本 WG でビジョンを描いた上で、必要な機能を障害者スポーツセンターに持たせていくことが必要。例えば、どのスポーツ施設に行っても障害のある方がスポーツできるようにするためには、一般のスポーツ施設やその利用者に障害のある方のことを理解してもらわなければならない。そのための事業が障害者スポーツセンターの事業として必要になるだろう。また、障害者スポーツセンターに来て、ゆくゆくは一般のスポーツ施設に行くこともあるだろう。では、そのためにはどういうことが必要か、というようなことも考える必要がある。

○　第３期スポーツ基本計画にもあるとおり、障害の有無に関わらす、いつでもどこでも誰もがスポーツを楽しめる環境づくりをすることが重要。

○　現在 18 都府県 26 施設ある障害者スポーツセンターのような施設が、残りの 29 道県にも１か所以上あることが必須である。障害者スポーツセンターが全国に設置されれば、障害のある方のスポーツ実施率の向上につながり、また、活力ある共生社会の実現にもつながると考える。

○　障害の有無に関わらず、いつでもどこでも誰もがスポーツを楽しめるようにするため、全国にあるスポーツ施設が原則として障害の有無に関わらず使用できる、共用であることが必要。

○　全てのスポーツにおいて、障害のある方がアクセスできること、障害の有無に関わらず楽しむことができるということが重要。

○　地方において、いつも課題になるのは財源の確保。だから、ここでは、新しい施設を一から建てるのではなく、既存の施設を活用して、どのように財源を確保して、障害者スポーツセンターを増やしていけるか、というところも議論したい。

○　新しい施設を建てるのは非現実。既存の施設にどのように、障害者スポーツセンターの機能、役割を付加していくか、ということが重要。その機能、役割は一体なんだ、という議論ができればと思っている。そしてその機能という点では人が大事。予算措置、専門職のスキル、能力、地域におけるコーディネート力も重要。そういったことも議論する必要があると思う。

○　体育館やプールなど屋内施設に限らず、自然の中でも障害のある方がスポーツできる環

境について議論を進めていきたい。

○　競技の専門家やいろんな資源を活用しながら展開すべき。地域でスポーツ振興するためには、障害者スポーツセンターにハブ機能を持たせ、どれだけ地域の資源をうまく活用できるかが重要な課題だと思う。

○　都道府県における障害者スポーツの振興は都道府県障害者スポーツ協会が担うことが多いが、運営基盤の弱いところもあり、今後、都道府県スポーツ協会との連携について検討する必要があるのではないか。

○　障害者スポーツ施設はスポーツ庁と厚生労働省とそれぞれ所管する部分があり、都道府県市区町村でも福祉主管部局とスポーツ主管部局のどちらが担うか、混乱のもとになっているのではないか。今後、厚労省とどのように関わりをもっていくか、考えていく必要がある。

＜障害者スポーツセンターの役割＞

○　障害者スポーツセンターは、障害者スポーツの関係者・機関をつなぐハブとなる施設であることが望まれる。

○　障害者スポーツセンターは、障害のある方を社会と分断することなく地域に広げ、繋げていく役割を持つことが重要である。

○　知的障害者は、身近なところにある施設でないと行きにくい。全国に障害者スポーツセンターがあることはいいことだが、各県１拠点だけでは対応しきれないと思うので、同時に、サテライトや特別支援学校等とのネットワークがあるセンターであることが大事。

○　スポーツ、福祉、医療、教育など各分野の連携が大事であり、障害者スポーツセンターが中心となるといい。

○　現在ある障害者スポーツ施設のほとんどがリハビリテーションを中心的な役割としており、障害者スポーツの発展やアスリートの養成や発掘が難しくなっていると思う。今後の障害者スポーツセンターの役割として、リハビリの役割も大事だが、同時に障害者スポーツの競技としての発展の役割も必要。サテライト・ハブ的な役割も必要だと思う。

○　障害者スポーツセンターは、障害のある方がスポーツを楽しみ、挑戦できる場でなければならない。例えば、アスリートが来たときにああいう風になりたいなと思えるところ。凄く幅広い機能があっていい。

＜障害者スポーツセンターにあるべき機能＞

○　障害者スポーツセンターは、専用または優先で利用できる施設で、障害のある方を指導できる専門の指導員が配置され、障害のある方が１人で利用しても指導してもらえるような運営体制が充実しており、障害のある方のスポーツに関する情報やノウハウが蓄積される施設であることが望ましい。

○　障害者スポーツセンターは、障害者スポーツに関する情報を発信する、コミュニティとつながる、用具を充実させていく、指導者を配置する、心身の特性に合わせたトレーニング方法等ができる等の障害者スポーツセンターらしい機能を持っていることが重要。こうした機能がセンター内だけでまとまり、社会と分断することなく、地域に広げ、つなげていくものであることが重要。また、特に、スポーツ用具については、用具があるだけでなくフィッティング、調整、修理、場合によっては補助具の開発ができるとより良い。

○　障害者スポーツセンターでは、障害の種類・程度、利用目的に応じた利用者本位のサービスの提供と、地域のスポーツ振興に取り組んでいる。

○　学校の教員が障害者スポーツの知識・専門性がなく、研修等を受けたくても受けられるところがない。

○　人材不足の指摘もあると思う。専門性のある職員がいることはセンターにとって大事だが、人材を育てていく、関わっていく仲間を増やせていけるか、が大事。

○　冬季スポーツやアウトドアスポーツでは、昔と比べて、安全性や効率性の観点からか体験教室や移動教室などの開催が減っているように感じる。出張教室は継続・拡大していくべき。

○　一般のスポーツ施設を障害のある方が利用しづらいということもある。市町村単位で必ずあるスポーツ施設に障害のある方がスポーツしやすい状況を作る必要がある。

○　地域の障害者スポーツの普及のハブである障害者スポーツセンターが中心となって、域内のスポーツ施設に障害のある方への対応についての理解促進を図らなければ、各施設での対応を進めていくことは難しいと思う。

○　新型コロナウイルス感染症の流行で、障害者スポーツセンターが使えなくなった時に、身近な地域の施設を使うことが多くなった。ハブとしての障害者スポーツセンター、身近な施設の活用、その両方が大事。

○　もっと身近な地域で障害者スポーツの活動を展開するためには民間施設や公共体育館

を利用する必要があるが、民間施設側に知識や情報、理解がなくて、障害者スポーツができる場所が少ない。障害者スポーツセンターが持っているノウハウや知識を民間施設に共有し、さらにその民間施設で障害者スポーツ事業を展開するクラブやその地域の団体などと連携するようなコーディネーター的な役割を担うことで、地域の障害のある方のスポーツ実施率の向上につながるのではないか。

○　障害者スポーツセンターでは、民間施設や公共体育館などに、障害のある方への対応に関するノウハウや知識を提供するためのマニュアルの作成をしている。

○　スポーツを継続するにはスポーツをする場所に用具、指導者、用具のフィッティング、ボランティアの機能を備えておく必要がある。

○　障害のある方でスポーツに関心のない方が非常に多い。小さい頃のスポーツ経験が少ないから、できると思っていない人がおそらく多い。子供たちに何かできる事業はないかということ、今、関心のない人に対してどうやってニーズを掘り起こしていくか、ということが重要。特に、今の子供に対しては学校、あるいは障害者スポーツセンターなどでも子供の事業は少ないと思う。

○　障害者スポーツセンターにあるべき機能として、事業や助成金の相談、会議室や一部拠点の貸し出しなどを実施しているNPOサポートセンターの機能も参考にしてはどうか。

＜必要な人材＞

○　重度障害があってもスポーツができること、障害のある方がどうやったらスポーツができるか、理解していて指導等できる指導者が、ボランティアでなく仕事として活動できることが重要である。

○　障害のある方を理解するだけでなく、障害のある方が日常的に使用している施設やスポーツ施設を理解し、一人一人異なるニーズを把握でき、意識に共感でき、想いを言語化することができ、障害のある方と関わりたいと思っている関係者との間をコーディネートできる人材を育成する必要がある。

○　障害者スポーツ振興を目的とした地域をコーディネートしていく資質をもった人材の育成が必要となるが、その資質のひとつを保障するものとして「社会教育士」を活用するのはどうか。障害者スポーツ指導者資格のうち、初級から中級に受験する際に、直接指導コースと、地域コーディネートコースをつくるようにし、指導は難しいけど、障害者スポーツ振興に関わりたいという人を取り込むのはどうか。

○　日常生活での自立だけでなく、その先の余暇活動であるスポーツを楽しむというところ

をリハビリのゴールに設定できるような理学療法士を養成しなければ、普及が進まないと思う。そういうわけで、日本理学療法士協会内に障害者スポーツ部会を作って昨年度から活動をしているが、養成カリキュラムの中に障害者スポーツを入れられればなと思っている。

＜必要な設備等＞

○　学校の生徒が学校でのスポーツに参加しやすいのは、安全・安心に過ごせるから、トイレが使いやすいから、という点がある。障害者スポーツセンターも同様であってほしいし、身体障害者のためのトイレなども設置してほしい。

○　近隣の宿泊施設なども含めて施設のバリアフリー化が必要。

○　車いすの方が障害者スポーツセンターに通うための移動手段も考えてほしい。

○　公共交通機関でアクセスができることが必要。